

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社メディカルケア	代表者	池尾深雪	法人・事業所の特徴	地域に開かれた事業所である為に、地域との関係作りに努めています。地域の行事には利用者と参加しともに暮らすことが出来るように心掛けています。高齢者が地域でその人らしく暮らしてもらう為に、日頃から生活スタイルを大事にし、利用者様がいつまでも健康で暮らせるように事業所独自の取り組みを行っています。
事業所名	ケアホームあきもと	管理者	高林 みゆき		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	1人	1人	人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価について、施設長や管理者のみが理解するのではなく、スタッフのみんなが理解できるようになるためホーム内研修で学ぶ機会を持つ。	事務員以外のパートを含めた全職員17名が自己評価に取り組みました。「あまりできていない」「ほとんどできていない」を選択した人数が、前回に比べ今回はどこまで減ったかによって達成感がちがいますね。	課題と合っているのでは達成可能な計画だと思います。私たち日本人でも難しいのに外国の職員はどこまで理解しているのでしょうか。	自己評価は、あくまでも自分が自分にする評価。自分が事業所を評価すると思違いしている職員がいるので、全員が正しい自己評価を行えるよう指導する。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者や家族からの同意が得られれば、「あきもと通信」を地域の方に回覧して頂く。	地域の掲示板に「あきもと通信」を載せて頂きたいが、利用者様の写真など個人情報があるので難しいのではないかと。	南般若では70班ほどある。全部の班に載せるのは難しい。新しくなった公会堂のロビーに掲示板ができるので、そこに貼りだしてはどうか。	家族様の手承を得てから南般若公会堂にお願いし、ロビーの掲示板に「あきもと通信」を貼りだし、ホームの事を地域の方に知ってもらおう。
C. 事業所と地域のかかわり	顔なじみの関係を作るため、地域で開催される行事へ参加する。	数年前より地域とのつながりはあるが、まだまだ足りない。ホーム長やケアマネばかりが地域と関わりがある。	職員の顔ぶれは人事異動で定期的に変わりますか。職員が何年も同じ顔ぶれということはありません。	一般職員も運営推進会議に参加し、地域とどのように関わっているか知ってもらおう。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	事業所のある地域へ出向き、事業所を知ってもらう機会を持つようお世話役の方と馴染みの関係を作る。	内覧会や納涼祭などのきっかけがないと地域に出かけないのが現状。日常的に出かけないのできっかけもつかんでない。	南般若全体の行事計画がほしい。	定期的に南般若公会堂に出向き、行事やイベントの有無を確認しつつ、顔を覚えてもらえるよう、公会堂の職員の方と馴染みの関係を作る。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議を事業所のものだけにせず、地域で心配な方に対する支援の方法を提案したり、まずは相談窓口として来訪して頂ける場であることを発信する。	砺波市から、「なんでも相談窓口」を設置して下さいとされている。南般若ではまだ設置しておらず、どうやってすればいいのかよくわからない。	「なんでも相談窓口」をホームと連携すればどうか。ホームにきた相談を包括、民生委員、社会福祉協議会に繋げられるのではないかと。	民生委員と協力し、ホームに「なんでも相談窓口」を設置する。受けた相談は、民生委員と共有し包括や社協に繋げる。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>地区で行われる防災訓練に参加する。 事業所で行われる自主避難訓練に地域の方にも参加（見学）して頂く。</p>	<p>地域の防災訓練に参加した。 よそに避難すればいいものではない。ここが倒壊することはまずないので、受け入れる側になるのではないかと。どういった災害を想定しているのか。地震ならホームにいた方がいい。</p>	<p>南般若振興会でもどこに避難すべきか決まっていない。 火災が一番身近。 火災が燃え移りそうな場合はどこに避難すればいいか。</p>	<p>ホームが地域住民を受け入れる場合の避難訓練の計画を立て、机上訓練を行う。</p>
----------------------------	---	--	---	---